

クマツヅラ	<i>Verbena officinalis</i> L.	絶滅危惧Ⅰ類	
		クマツヅラ科	
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。	写真(岐阜県博物館) 標本 	
形態の特徴	茎は直立し、四角で高さ30-80cmになる多年草。葉は卵形で3裂し、茎とともに細毛がある。花期は6-9月。枝先に細長い30cmにもなる穂状花序を出し、無柄の紫色の小さい花を多数つける。果実は4個の分果からなる。		
生態的特徴	野原や道端に生える。		
分布状況	本州～琉球、アジア、ヨーロッパ、アフリカ北部に分布する。県内では県南の南西部に生育する。		
減少要因	本種の分布域は県南の南西部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。		
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。		
特記事項			
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)		

文責:佐藤和良